

大崎市における希少動物保全の取組

大崎市産業経済部農政企画課

三宅 源行

化女沼に飛来する希少種「シジュウカラガン」について

大崎市の北部に位置する化女沼（3.4ha）は、700種を超える植物、120種以上の鳥類が生息するダム湖で、マガンをはじめとする渡り鳥が多く飛来することから2008年にラムサール条約湿地に登録されました。

近年、シジュウカラガンが多く飛来するようになってきました。平成19年以前には、宮城県内で数羽が飛来するかどうかといった状況でしたが、平成20年に約40羽が観察されると、翌年以降も定期的に数十羽が飛来するようになり、平成26年度には1,000羽を超えるシジュウカラガンが飛来するようになり、現在は1万羽を超えるシジュウカラガンが化女沼で観察されるようになっています。

化女沼の魚類について

化女沼のダム化工事が始まることから、1984年に9月に「化女沼さよなら捕魚大会」が開催された際には、仙台市や近隣の市町村から1200人が参加し、コイやフナ、ウナギなどを捕まえたことが記録されています。

ところが、2012年に刺し網により魚の調査を実施したところ、オオクチバス・ブルーギルが98.5%を占めていました。

そこで本市では、地元NPO団体と協力し、2013年から稚魚すくい・定置網・電気ショッカーボートによる駆除手法を組み合わせ、オオクチバス等外来魚の駆除事業を実施しており、徐々に外来魚の捕獲数が減少しつつありますが、在来魚の復元にはまだ途上の状況にあります。

江合川流域のため池調査について

化女沼の水中の在来生態系の復元のため、2023年度より、江合川流域に分布するため池の、魚類等の生息状況調査を開始し、これまでに約100ヶ所実施しました。

ラムサール条約湿地「化女沼」における希少種保全の取組を報告いたします。